

## 1ヶ月間に経験した虚血性大腸炎 10症例の臨床的検討

まる やま しげ お 八 しま かず お いけ ぶち ゆういちろう  
丸 山 茂 雄<sup>1)</sup> 八 島 一 夫<sup>2)</sup> 池 淵 雄一郎<sup>2)</sup>  
こう だ まさ ひこ むら わき よし かず  
孝 田 雅 彦<sup>2)</sup> 村 脇 義 和<sup>2)</sup>

キーワード：虚血性大腸炎，女性，基礎疾患，便秘

### 要 旨

1ヶ月間に集中的に発生した虚血性大腸炎（IC）10例を経験した。全例女性で，年齢は40～74歳と幅広い年齢層であった。基礎疾患として，5例に高血圧，高脂血症，糖尿病，1例にB型肝炎を認めた。全例夕食後短時間に発症しており，食事摂取後の腸管運動の亢進，腸管内圧の上昇，さらに腸管血流の低下が加わりICが発生したと推察した。ICは，日常診療でよく遭遇する一般的な疾患であるが，短期間に集中的に発生することは比較的稀と思われ報告する。

### はじめに

虚血性大腸炎（ischemic colitis; IC）は，腹痛，下痢，下血で発症し，腸管虚血性病変を主体とする疾患で，急性の下部消化管出血の原因として最も多く遭遇する疾患の代表と言える。糖尿病，高血圧，高脂血症に伴った動脈硬化や血管攣縮，脱水，循環不全，血管炎などによる腸管の血流低下などの血管側因子と，便秘や浣腸などによる腸管の内圧上昇や蠕動運動亢進などの腸管側因子が複雑に絡み合って，腸管に血流障害を引き起こして虚血状態が生じ発症すると考えられているが，発

症機序に関しては未だ不明な点も多い。今回我々は，1ヶ月間で10例のICを経験したので，臨床検査および詳細な問診から，その臨床的特徴および患者の背景因子を検討し，本症の発症要因に関して考察を行った。

### 対 象

2013年5月中旬から6月中旬までの1ヶ月間に当院を受診した10例のIC患者を対象とした。ICの診断は，臨床症状，内視鏡所見，組織学的所見をもとに，飯田らの診断基準<sup>1)</sup>に従った。年齢は，40から74歳と幅広い年齢層にわたり，40歳代が5人で最も多く，平均年齢は56±15歳で，全例女性であった（Table 1）。

Shigeo MARUYAMA et al.

1) 丸山内科クリニック

2) 鳥取大学医学部機能病態内科学分野

連絡先：〒683-8503 鳥取県米子市西町36-1